

国土交通省総合政策局
情報政策課交通経済統計調査室
平成27年8月4日(火)公表

トラック輸送情報

平成27年5月分

平成27年6月分は平成27年9月上旬公表予定

*問い合わせ先

国土交通省総合政策局情報政策課交通経済統計調査室

電話 03-5253-8111 F A X 03-5253-1567

担当 廣中、桑原 内線 28-723

この調査報告の概要は、国土交通省ホームページでもご覧いただけます。
<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

トラック輸送情報（平成27年5月分）

平成27年8月4日
総合政策局 情報政策課 交通経済統計調査室
担当：廣中、桑原 内線28723
直通：03-5253-8346
<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

1. 特別積合せ貨物

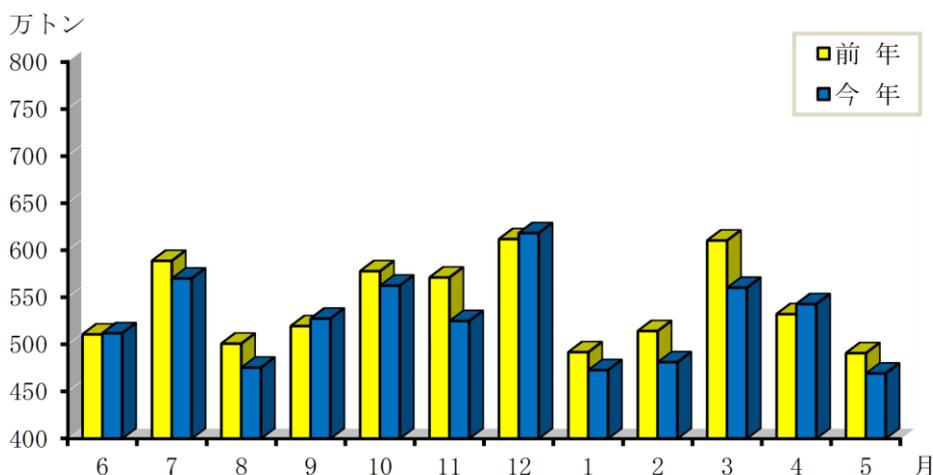
(1) 本月の概況

調査対象24社の本月の輸送量は、4,692,879トンで、前月と比べ総輸送量が約735千トン減少したため、前月比86.5%（季節調整済み98.4%）となり、前年同月との比較では、約215千トン減少したため、前年同月比95.6%の実績であった。

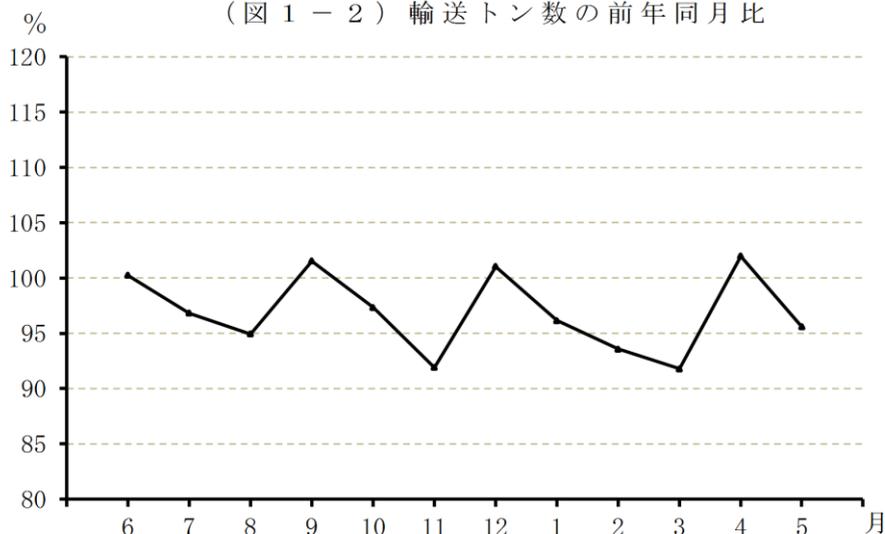
なお、平均稼働日数は22.3日で、前月と比べ1.9日減少し、前年同月との比較では、0.8日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、210,443トンで、前月と比べ約14千トン減少したため、前月比93.8%となり、前年同月との比較では、約2千トン減少したため、前年同月比99.1%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比

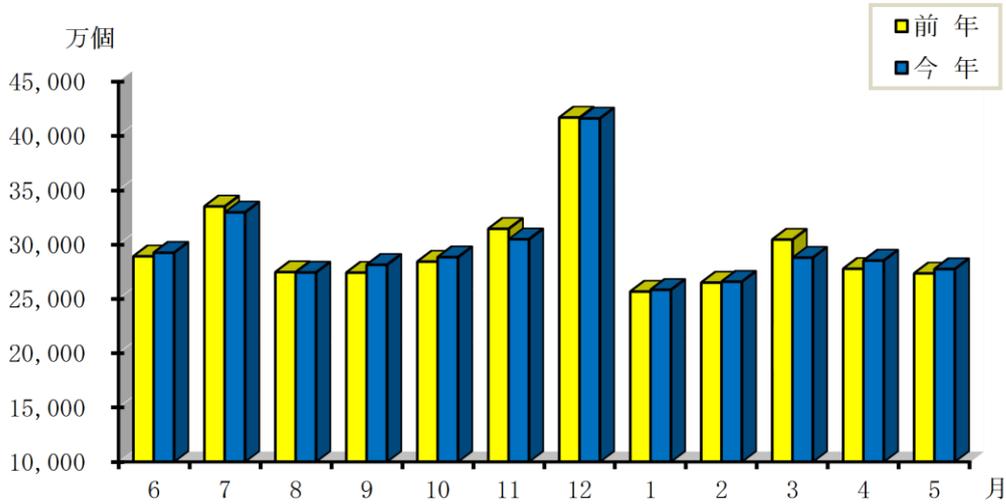


(2) 宅配便の概況

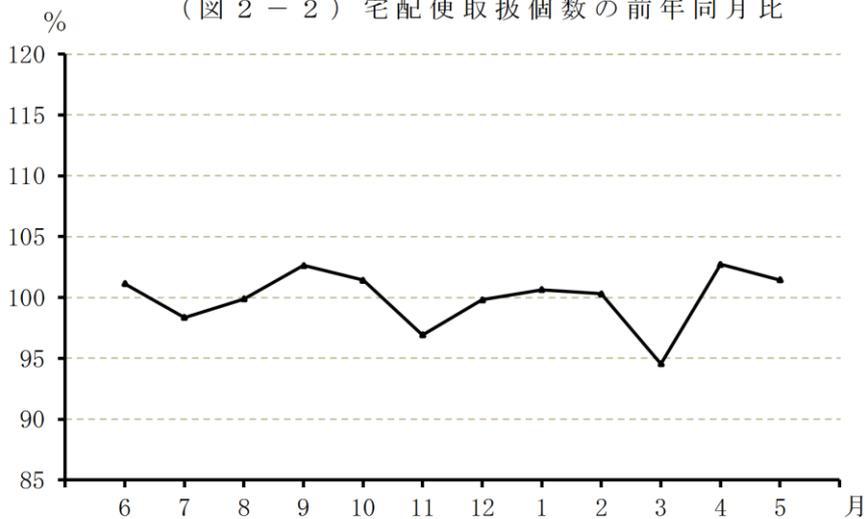
調査対象 14 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、約 277,385 千個で、前月と比べ 約 7,863 千個減少したため、前月比 97.2% (季節調整済み 101.0%) となり、前年同月との比較では、約 3,973 千個増加したため、前年同月比 101.5% の実績であった。

(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

調査対象 25 社 (24 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社) は、前月と比べると、全ての品目において、輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。その減少要因としては、工場・生産地からの貨物減であった。また、倉庫から出る貨物減が「機械」、「化学工業品」で、季節的需要減が「日用品」で見られた。主な減少地域は、関東地方から中国の範囲であった。

前年同月と比べると、全ての品目において、輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。その主な減少要因は工場・生産地からの貨物減であった。また、季節的需要減が「日用品」で見られた。主な減少地域は、関東地方から中国の範囲であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因	
	著 増	増	変 ら ず	減	著 減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	1	10	3	3			
	金属製品			11	10		その他の金属製品	東京、関東、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	機械			10	9	1	機械部品	関東地方、愛知、大阪、近畿	4, 7
	化学工業品		1	9	12		合成樹脂	関東地方、北陸信越、中部地方、大阪、近畿、中国	4, 7
	繊維工業品			14	8			関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	食料工業品		1	10	4	5	その他の食料工業品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	日用品			11	7	4		関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方	4, 8
	その他		1	8	10	2	その他(百貨店配送品)		2, 8
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		3	11	2	2			
	金属製品			15	5	1			
	機械	1		10	8	1	機械部品	神奈川、関東、北陸信越、中部地方、大阪、近畿	4, 7
	化学工業品		2	10	10		その他の化学工業品	関東地方、大阪、近畿	4, 7
	繊維工業品			15	4	3		神奈川、関東、中国	4
	食料工業品		3	12	4	1	その他の食料工業品		
	日用品			13	8	1		関東地方、北陸信越、愛知、大阪	4
	その他		1	12	6	2	その他(百貨店配送品)		2, 4

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者 818 社/調査対象事業者数 1,008 社)の輸送量は、前月比 94.5%、前年同月比 96.5%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	96.5 %	102.8 %	97.1 %	96.2 %	93.3 %	95.8 %	90.8 %	95.0 %	97.7 %	89.9 %	109.7 %	
前 月 比	94.5 %	106.4 %	90.7 %	91.2 %	91.3 %	90.9 %	88.0 %	93.3 %	94.6 %	88.9 %	100.2 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況(各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比 106.4%、対前年同月比 102.8%であった。品目別では、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「工業用非金属鉱物」が、季節的需要増により「砂利・砂・石材」が、また、「金属製品」、「機械」、「廃棄物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減により「石炭」が、季節的需要減により「その他の石油製品」が、また、「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比 90.7%、対前年同月比 97.1%であった。品目別では、季節的需要増により、「食料工業品」、「取り合せ品」が、工場・生産地からの貨物増により「水産品」、「食料工業品」が、また、「工業用非金属鉱物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減により「穀物」、「セメント」、「揮発油」、「その他の製造工業品」が、景気の影響による貨物減により「機械」、「揮発油」、「その他の製造工業品」が、また、「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比 91.2%、対前年同月比 96.2%であった。品目別では、「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比 91.3%、対前年同月比 93.3%であった。品目別では、季節的需要増により「食料工業品」が、また、「砂利・砂・石材」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減により「金属製品」、「木材」が、また、「揮発油」、「その他の石油製品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比 90.9%、対前年同月比 95.8%であった。品目別では、「砂利・砂・石材」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比 88.0%、対前年同月比 90.8%であった。品目別では、ゴールデンウィークによる稼働日数の減少により、「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送状況については、対前月比 93.3%、対前年同月比 95.0%であった。品目別では、季節的需要増により「食料工業品」、「廃棄物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「機械」、「その他の化学工業品」が、景気の影響による貨物減により「取り合わせ品」「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降はほぼ横ばいが予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比 94.6%、対前年同月比 97.7%であった。品目別では、建設関連の需要減により「機械」が、工場・生産地からの貨物減により「工業用非金属鉱物」、「金属製品」、「化学薬品」が、季節的需要減により「野菜・果物」、「その他の石油製品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比 88.9%、対前年同月比 89.9%であった。品目別では、「穀物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」、「機械」が、天候の影響と輸出入の貨物減により「野菜・果物」が、また、「セメント」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比 100.2%、対前年同月比 109.7%であった。品目別では、商社・問屋からの需要により「鉄鋼」、「紙・パルプ」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
品目		海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
		道			信							計
1. 穀物	増	2			1			1		2		6
	減	1	3		1			1			1	7
2. 野菜・果物	増		2						1	5		8
	減		2						7	10		19
3. その他の農産品	増	1								1		2
	減		1	1				1				3
4. 畜産品	増	1								1		2
	減	1						1		2		4
5. 水産品	増	1	2							1		4
	減	1				1			1	2		5
6. 木材	増	2						1		2	1	6
	減	3	1		2			1	1	3		11
7. 薪炭	増											
	減	1										1
8. 石炭	増											
	減	4										4
9. 金属鉱物	増							1	1			2
	減		1									1
10. 砂利・砂・石材	増	12	1		2			1	2			18
	減	2	2			2		2	1	5		14
11. 工業用非金属鉱物	増	3	2			1						6
	減								2			2
12. 鉄鋼	増	1	1		2				2		2	8
	減		2	1	2			1	2	1		9
13. 非鉄金属	増	1							1			2
	減				1		2			1	1	5
14. 金属製品	増	2			1			1		2		6
	減				3		2	1	2	4	1	13
15. 機械	増	2		1	1		1	1	1	1	1	9
	減		3			1	3	5	4	5	1	22
16. セメント	増	2							1	2		5
	減	1	2		1	1		2	2	7		16
17. その他の窯業品	増									1		1
	減		1		1				1	2		5

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18.揮 発 油	増											
	減	1	2		3							6
19.その他の石油製品	増	1						1				2
	減	4			2			2	3	1		12
20.コークス・ その他の石炭製品	増											
	減	1			1							2
21.化 学 薬 品	増		1									1
	減		1						3			4
22.化 学 肥 料	増	1			1				1			3
	減	2			2				2	1		7
23.その他の化学工業品	増								1	1		2
	減				1			5	1		1	8
24.紙 ・ パ ル プ	増	1	1						2		1	5
	減			1	1			1	3	4		10
25.織 維 工 業 品	増									1		1
	減		1						1	1		3
26.食 料 工 業 品	増	1	2	1	5		2	5	3	4		23
	減	2		1	1		3	2	3	3		15
27.日 用 品	増						1	3	1			5
	減	2	1	2	1			3	1	3	1	14
28.その他の製造工業品	増		1									1
	減		3			1	1	1	1	1		8
29.金 属 く ず	増											
	減									1		1
30.その他のくずもの	増								1			1
	減											
31.動植物性飼・肥料	増	3								3		6
	減	3	4					1	1	3		12
32.廃 棄 物	増	4	1					2	1	3		11
	減	1	1						2	2		6
33.輸 送 用 容 器	増											
	減				1							1
34.取 り 合 せ 品	増		2					4		1		7
	減			1			1	5	1	3	1	12
35.そ の 他	増	2			2		1	2		7	1	15
	減	2	5	4	3		6	4		9	1	34